

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2196-9	ヒトへのH7N3型トリインフルエンザ感染として初の事例。
											ウスツウイルス	Emerging Infectious Diseases 2005;11(2):298-301	ウスツウイルスがヒト由来の細胞を含め、多種の動物に由来する多様な組織型の培養細胞に感染しうる事が示された。
2005/5/24	50189	塩野義製薬株式会社	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマー1a(遺伝子組換え)	パンクレアチン(プロテアーゼ)	ブタ膵臓	アメリカ、カナダ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	Virus Research 2004;103(1-2):67-73	ヒトのインフルエンザの宿主として、アメリカにおけるブタの重要性について。
											E型肝炎	肝臓 2004;45(12):688	ブタ膵臓を摂取した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
2005/5/26	50190	バクスター株式会社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2004;264:527-29	輸血に関連したvCJD伝播の可能性が疑われた事例。
											E型肝炎	Transfusion.2004;44:934-40	ブタ膵臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											E型肝炎	J Gastroenterology and Hepatology 2004;19:778-84	複数回の輸血経験群の急性E型肝炎マーカーの発現率について。
											E型肝炎	J Med Virology 2004;74:563-572	透析を受けている患者のE型肝炎ウイルス罹患率について
2005/5/26	50191	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	マウスモノクローナル抗体		有効成分	無	無	無			
2005/5/26	50192	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	スイス	製造工程	無	無	無			
2005/5/26	50193	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	ドイツ	製造工程	無	無	無			
2005/5/26	50194	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
2005/5/26	50195	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓抽出物	アメリカ及びカナダ	製造工程	無	無	無			
2005/5/26	50196	東レ株式会社	インターフェロンベータ	インターフェロンベータ	ヒト繊維芽細胞	日本	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/26	50197	東レ株式会社	インターフェロンベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒトヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
2005/5/26	50198	東レ株式会社	インターフェロンベータ	乳糖	ウシ乳	オランダ、ドイツ、ベルギー及びルクセンブルク	添加物	無	無	無			
2005/5/26	50199	東レ株式会社	インターフェロンベータ	ウシ血清	ウシ血液	オーストラリア及びニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/5/26	50200	東レ株式会社	インターフェロンベータ	トリプシン	ブタ膵臓抽出物	アメリカ合衆国及びカナダ	製造工程	無	無	無			
2005/5/27	50201	日本製薬株式会社	人免疫グロブリン	免疫グロブリンG	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	Vox Sanguinis 2004;86:171-7	血液製剤のミニプール核酸増幅検査(MP-NAT)が導入されてから初めての輸血によるHIV感染事例。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	EMA/CHMP/BWP/CP MP/5136/03	vCJDのリスクに関する血漿由来医薬品の製造工程の調査についてのガイドライン
											クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2004;10(38):1-3	FDAの伝達性海綿状脳症諮問委員会(TSEAC)は血液および血液製剤によるvCJDの伝播防止措置は適切であると判断し、現行規制を変更しないこととした。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2004年10月22日	仏国で8例目のvCJD患者が報告された。仏国初の供血経験者であり、患者由来の原料が血漿分画製剤の製造に使用されていたが、血漿分画製剤による伝播の証拠はないと述べている。
											E型肝炎	ProMed20041129-0060(Daily Yomiuri 11月28日)	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											B型肝炎	共同通信 2004年12月17日	HBV低濃度キャリアー献血者からの血液が、検査をすり抜け、輸血によりHBVを伝播した。
											ウエストナイルウイルス	Transfusion 2004;44(12):1695-9	ミニプールでの核酸検査を行ったにもかかわらず、輸血で西ナイルウイルスに感染した。
											A型肝炎	Transfusion 2004;44(11):1555-61.	供血後にA型肝炎を発症した供血者血液の輸血によりHAVが伝播した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有 区分	文献	症例	適正 使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年2月4日	輸血歴はなく、英国滞在歴のある国内における最初のvCJD症例が確定された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年3月7日	平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。
2005/5/27	50202	日本製薬株式会社	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D(Rho)抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	HIV	Vox Sanguinis 2004;86:171-7	血液製剤のミニプール核酸増幅検査(MP-NAT)が導入されてから初めての輸血によるHIV感染事例。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	EMEA/CHMP/BWP/CP MP/5136/03	vCJDのリスクに関する血漿由来医薬品の製造工程の調査についてのガイドライン
											クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2004;10(38)1-3	FDAの伝達性海綿状脳症諮問委員会(TSEAC)は血液および血液製剤によるvCJDの伝播防止措置は適切であると判断し、現行規制を変更しないこととした。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2004年10月22日	仏国で8例目のvCJD患者が報告された。仏国初の供血経験者であり、患者由来の原料が血漿分画製剤の製造に使用されていたが、血漿分画製剤による伝播の証拠はないと述べている。
											E型肝炎	ProMed20041129-0060(Daily Yomiuri 11月28日)	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											B型肝炎	共同通信 2004年12月17日	HBV低濃度キャリアー献血者からの血液が、検査をすり抜け、輸血によりHBVを伝播した。
											ウエストナイルウイルス	Transfusion 2004;44(12):1695-9	ミニプールでの核酸検査を行ったにもかかわらず、輸血で西ナイルウイルスに感染した。
											A型肝炎	Transfusion 2004;44(11):1555-61.	供血後にA型肝炎を発症した供血者血液の輸血によりHAVが伝播した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年2月4日	輸血歴はなく、英国滞在歴のある国内における最初のvCJD症例が確定された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年3月7日	平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/27	50203	財団法人日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ミドリザル腎臓細胞	ミドリザルの腎臓	日本	製造工程	有	有	無	心筋炎	J of Parasitology 2004;90(4),870-1	スリランカのポロンナルワア地方において野生のサル170頭の血清におけるトキソプラズマ抗体の試験を行った。人間と接触の機会が多いサルのほうが森林地域で生息しているさるよりも多く抗体を保有していた。
2005/5/27	50204	財団法人日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ウシ血清	ウシの血液	オーストラリア・ニュージーランド	製造工程	有	有	無	狂犬病	ProMed20050311-0724(sourcc correo Braziliense 9 Mar 2005)	2005年1月～2月の期間にブラジルのブラジリア連邦のFederal区域において7頭のウマおよびウシで狂犬病が診断された。この数字は2004年における狂犬病事例総数の半分に達する。
2005/5/27	50205	財団法人日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ラクトアルブミン	ウシの乳	ニュージーランド	添加物	有	有	無	狂犬病	ProMed20050311-0724(sourcc correo Braziliense 9 Mar 2005)	2005年1月～2月の期間にブラジルのブラジリア連邦のFederal区域において7頭のウマおよびウシで狂犬病が診断された。この数字は2004年における狂犬病事例総数の半分に達する。
2005/5/27	50206	財団法人日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	トリプシン	ブタの膵臓	アメリカ・カナダ	製造工程	有	有	無	ウイルス感染	J of clinical microbiology 2005;43(2),657-661	急性胃腸炎を引き起こすノロウイルスにおいてブタと人との間で遺伝的トランスミッションを起こす人畜共通感染症として示唆している
2005/5/27	50207	ZLBベーリング株式会社	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	ドイツ	有効成分	有	有	無	人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について。
2005/5/30	50208	大塚製薬株式会社	インターフェロンガンマーn1	インターフェロンガンマーn1	ヒトミエロモノサイト細胞株	アメリカ	有効成分	無	無	有			
2005/5/30	50209	大塚製薬株式会社	インターフェロンガンマーn1	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	無	無	有			
2005/5/30	50210	大塚製薬株式会社	インターフェロンガンマーn1	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	有			
2005/5/30	50211	大塚製薬株式会社	インターフェロンガンマーn1	抗ハムスター胸腺細胞ウサギ抗血清	ウサギ血液	アメリカ	製造工程	無	無	有			
2005/5/30	50212	大塚製薬株式会社	インターフェロンガンマーn1	抗IFN-γモノクロナール抗体	マウスハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	有			
2005/5/30	50213	大塚製薬株式会社	インターフェロンガンマーn1	ハムスター(ヒトミエロモノサイト細胞株を皮下で増殖)	ハムスター	日本	製造工程	無	無	有			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/30	50214	日本赤十字社	解凍人赤血球濃厚液	解凍人赤血球濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	Eurosurveillance Weekly 2005;10(8)	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された
											HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	在日外国人のHIV-2型感染が確認された。
											細菌感染	J of Clinical Microbiology 2004; 42(10): 4759-64	血小板製剤に混入した細菌の検出法として、23S rRNAとgroEL遺伝子を利用したreal-time RT PCRが開発された。その感度は、大腸菌125 CFU/mLを検出した
											細菌感染	日本輸血学会雑誌2004; 50(5): 726-9	敗血症性ショックとの関連が疑われた血小板製剤からM. organii が検出され、輸血による細菌感染が示唆された。
											マラリア	ABC newsletter 2004年12月3日	米国疾病管理予防センターは、ドミニカ共和国のアルタグラシア州およびデュアルテ州を訪れた旅行者2名のマラリア感染報告を受け、旅行者に対する予防措置の勧告内容を拡大する。
											マラリア	CDC 2005年1月12日	国疾病対策予防センター(CDC)は、2004年12月26日に発生した大地震および津波の被災地域に居住する米国人に現在の健康上、安全上のリスクに関する情報を通知し、これらのリスクを最小限とするために講じる措置についてのガイダンスを提供する。
											マラリア	ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日)	パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナからの供血者による輸血マラリア感染
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイビー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005 ;64(5):905-7	R208H変異がPrP ^{Sc} の特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼす。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うより正確に行える。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-1126	レクテン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Irish Blood Transfusion Service 2004年10月31日	アイルランド輸血サービスはvCJD伝播リスク低減のため、英国潜在歴や手術歴等に新たな供血制限を発表した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20041124-0040(AFP記事11月23日)	フランスで9例目となるvCJD患者の頻回献血が報告された。該当血液は既に使用されている種、受血者の追跡調査を発表した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2004;306(5702):1793-6	129位のアミノ酸がバリンであるヒトプリオン蛋白質は変異型クロイツフェルトヤコブ病(vCJD)の発現を阻止する。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2004年12月17日	オランダは血液を介したvCJD伝播への懸念から2004年12月9日、供血者に関する新たな禁止措置を実施することを発表した。
											BSE	ProMed20050129-0060(BBC News 1月28日)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明した。これは、ウシ以外の食用動物が牛海綿体脳症(BSE)に感染した初めての事例である。
											BSE	ProMed20050204-0030(EU press Rereases 2 Feb 2005)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明したことから、欧州委員会は、ヤギの検査数を4倍に増やす計画である
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050205-0040(共同ニュース 2月4日)	本邦において初の変異型ヤコブ病(vCJD)患者が確認された。
											BSE	ABC newsletter 2005年2月11日	スコットランドにおいて、BSEに感染したヤギが1990年には存在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	モロッコで初めてvCJDの疑いのある患者が死亡した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005 ;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	WHO/CSR,Influenza 2005年12月30日	高病原性鳥インフルエンザによる感染がベトナムで拡大している。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):686-91	呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。
											ウイルス感染	Transfusion 2004;44 Supplement:16A-17A, S47-0301	感染性不活化技術の一つリボフラビンで処理された血小板製剤は、未処理製剤に比べ代謝亢進や回収率低下、体内生存期間短縮が認められたが、臨床的には有用である
											ニパウイルス	ProMed20041123-0030(The Independent Bangladesh) Independent, Bangladesh, 11月21日	ニパウイルス感染患者からのヒト-ヒト感染が疑われる死亡症例が報告された。
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											デング熱	Clinical Infectious Diseases 2004 ;39(6):56-60.	顔面にデング熱患者の血液飛沫を受けた医療従事者が、同ウイルスに感染した。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2004年11月5日	FDAはWNVIに対する供血延期期間を28日から56日に拡大することを勧告した。
											ウエストナイルウイルス	ProMed20050125-0070(ウイルス学生物工学研究センター-Dr. Valery B.Loktev 1月24日)	ウエストナイルウイルス(WNV)が現在ロシア極東地域で循環していることが確認された
											A型肝炎	AABB ASSOCIATION BULLETIN#04-08	米国血液銀行協会(aabb)は、血液採取施設に対してA型肝炎ウイルス(HAV)流行時に地方自治体の保険当局が行う具体的な措置に従って供血延期措置を実施するよう勧告した。
											B型肝炎	Hepatology 2004;40(5):1072-7	カナダの都市部で血液透析を受けている成人患者のoccultHBV(B型肝炎表面高抗原性)、HBV-DNA陽性)保有率は3.8%(241名中9名)であり、ほとんどがウイルス量は低く、sG145R変異体の保有率が高かった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有 区分	文献	症例	適正 使用	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	ABC newsletter 2004年10月22日	FDA血液製剤問答委員会は、HBc抗体陽性者に新たな検査方法を加え供血者のエントリーを可能とするよう勧告した。
											B型肝炎	American Society of Hepatology46th Annual Meeting2259	B型肝炎の既往症を有する14名(HBs抗体陽性)の患者に対して実施された同種造血幹細胞移植では、HBVが再活性化しているリバセロコンバージョンとなる可能性が示された。
											B型肝炎C型肝炎	Vox Sanguinis 2005;88(1):10-6	日本の献血者においてNATにより検出されたハイリスクドナーはHBV,HCV双方とも主に若年者で、入院患者とは異なるgenotypeの分布を有する。HBVの稀なgenotypeHが日本で始めて発見された。本調査結果は若年層にHBV,HCVが広がっていることを反映しているとの報告である。
											B型肝炎	J of General Virology 2005; 86: 595-9	本邦の献血者において、遺伝子型がHのHBV事例が初めて発見され、現行のNATスクリーニングで検出された。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。
											C型肝炎	Hepatology 2005;41(1):115-22	HCVの感染は肝疾患病棟、特に長期間の入院を要する患者において、患者から患者のルートで発生しているようである
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005; 75(3): 399-401	英国において、麻酔の手順上、感染のおそれがない状況下で麻酔科医から患者にHCVが伝播した最初の報告である。このことから、輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートについて考慮する必要がある
											E型肝炎	J of Medical Virology 2004;74(4):563-72	透析を受けている患者のE型肝炎ウイルス罹患率について
											E型肝炎	ProMed20041129- 0060(Daily Yomiuri 11月 28日)	ブタ肝臓を摂取した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											E型肝炎	肝臓2004; 45(Suppl3)日 本肝臓学会東部会講演 要旨No117	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
2005/5/31	50215	セローノ・ジャ パン株式会社	胎盤性性腺刺激ホル モン	胎盤性性腺刺激ホル モン	人尿	韓国	有効 成分	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/31	50216	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	抗FSHマウスモノクローナル抗体	マウス	イタリア	無	無	無	無			
2005/5/31	50217	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE 2004年10月1日号 Vol.17 No.40	米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 6報告終了日-2004年9月21日 新規アウトブレイク-Texas州などの合計32農場 新規アウトブレイクの動物総数-ウシにおいて疑い例396例, 症例13例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE 2004年11月12日号 Vol.17 No.46	米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 7報告終了日-2004年10月26日 新規アウトブレイク-Colorado州Adams群などにおける合計53農場(ニューメキシコまたはテキサス州において2004年9月22日~2004年10月26日に新たな症例は確認されていない)新規アウトブレイクの動物総数-ウシにおいて疑い例792例, 症例10例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE 2004年11月26日号 Vol.17 No.48	米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 8報告終了日-2004年11月16日 新規アウトブレイク-コロラド州, ニューメキシコ州における計33件2004年9月22日~2004年11月26日にテキサス州における症例は検出されていない。新規アウトブレイクにおける動物数-コロラド州:ウシにおいて疑い例1176例, 症例12例 病因-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey 病原/感染源-不明拡大様式-不明
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE 2004年12月10日号 Vol.17 No50	米国における水疱性口内炎Follow-up report no9今回報告終了日-2004年11月30日 新規アウトブレイク-NewMexico州における1件, Colorado州における2件。新規アウトブレイクにおける動物数-コロラド州:ウシにおいて疑い例15例 病因-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey病原
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE 2005年1月7日号 Vol.18 No.1	米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 10報告終了日-2005年1月6日 新規アウトブレイク-コロラド州における1件 新規アウトブレイクにおける動物数-コロラド州:ウシにおいて疑い例250例 病因-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMed20050501-0030(OIE)	米国における水痘性口内炎について流行終息宣言地域における再発生。2005年4月28日現在。
											炭疽	ProMed20041105-0060(OIE)	フィンランドでの炭疽。動物の異常の初検知日：2004年10月5日。事例発生地：フィンランド南部。流行中の動物個体数：ウシ39頭。症例数/死亡症例数：2頭。感染源：汚染された飼料。感染対策：隔離および国内での移動管理。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H16年11月1日	BSE感染が確認された農場で死亡した94か月齢の牛から末梢神経組織の一部や副腎に異常プリオンたん白質が見つかったという報告である。
											BSE	厚生労働省ホームページ H17年3月23日	“牛海綿状脳症(BSE)の検査結果について 牛海綿状脳症(BSE)のスクリーニング検査結果の週報が更新されています(平成17年3月13日-3月19日搬入分)。陽性の牛：1件、検査中の牛：0件であることなど記載。
											BSE	厚生労働省ホームページ H17年5月6日	BSEスクリーニング検査結果について。全牛検査開始以降にBSEと診断された牛は12頭。
											BSE	厚生労働省ホームページ H17年3月27日	“牛海綿状脳症(BSE)確定診断の結果について 平成17年3月27日に「牛海綿状脳症の検査に係る専門家会議」委員による検討の結果、牛(平成17年3月24日処理；雄；ホルスタイン；108カ月令；飼育地は北海道天塩町)がBSEであるとの結論を得たことについて。
											BSE	ProMed20041231-0020(Canadian Press)	カナダ食品検査局は、BSE疑い症例が検知されたと発表。食品検査局では、予備的な検査結果は、12月29日に判明したとし、検査は問題の個体が歩行困難と確認されたのを受けて実施されたと加えた。今回の検査結果は最終的ではなく、同局は、複数のスクリーニング検査で陽性反応が得られたが、陽性となった個体の組織は、ヒトの食糧や家畜の肥料としては使用されていないとしている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	ProMed20050103-0020(カナダ食品検査局)	疑い動物でBSE感染の診断確定、調査が進行中。カナダ食品検査局(CFIA)は本日[2004年1月2日]、アルバータ州の高齢の乳牛が検査で牛海綿状脳症(BSE)陽性となったことを確認した。感染が確認された個体は、1997年の飼料規制導入以前の1996年に誕生した。このウシは、飼料規制以前に汚染された飼料から感染したと考えられている。BSE確定症例のいかなる部分も、ヒトおよび動物飼料の食物連鎖環に入っていない。この発見は、食品安全上の危険性増加にはあたらない。
											BSE	ProMed20050109-0020(OIE)	カナダの全国(BSE)サーベイランス計画により、アルバータ州の7歳未満の個体で、ウシ海綿状脳症(BSE)感染を確認したと発表した。
											BSE	ProMed20050112-0020(CFIA)	カナダの全国(BSE)サーベイランス計画により、アルバータ州の7歳未満の個体で、ウシ海綿状脳症(BSE)感染を確認したと発表した。
											BSE	ProMed20050126-0070(OIE)	カナダの全国(BSE)サーベイランス計画により、アルバータ州の7歳未満の個体で、ウシ海綿状脳症(BSE)感染を確認したと発表した。
											BSE	ProMed20041119-0010 (Associated Press)	新たなBSE疑い例。農務省当局は11月18日、米国で2例目となるBSE症例が確認される可能性がでたと発表。
											結核	ProMed20050208-0070 (ネブラスカ州農業局)	最近ネブラスカ州で発見された牛結核(TB)症例(屠殺時陽性確認)の調査に積極的な取り組み。
2005/5/31	50218	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	デング熱	ProMed20041102-0010(China Economic Information Service)	中国東部の省で発生しデング熱流行は制圧された。
											デング熱	ProMed20041119-0050(新華通信)	今月(2004年11月)51歳女性がデング熱に罹患したことが発見され、今年(2004年)マカオにおける2例目のデング熱患者となった。
											デング熱	ProMed20050118-0030 (香港衛生署)	香港衛生署の健康保護センター(CHP)は、デング熱輸入患者1名を確認し、市民に対しデング熱について注意を喚起した。